

十二、外注業者を選択するポイント

先の項目でコンペの仕方について触れました。その中から一社を最終的には選ぶわけですが、その際の検討のポイントは、①企画の善し悪し ②見積もり金額 ③制作サービスの善し悪し などです。このあたりは前項の比較の中で見えてくると思いますが、それ以外にも実はたいへん重要なポイントがあります。それは、④原稿を執筆するライターの善し悪し、⑤依頼主企業と制作会社の相性の問題です。

まず、原稿を外部に発注する場合は、ライターが取材をし原稿を書きます。このライターの管理はたいへん重要です。それと同時に、その制作会社が、どの程度のライターを使えるかという点です。

当社では、一三、四年前に社史を手がけ始めたころ、ライターの管理にたいへん手こずっていた時期がありました。当時は社史を書けるライターが少なく、限られた手持ちのライターの中で、いけそうな人に頼み込んで書いてもらっていました。しかし、だんだんと引き合

いが増えるにしたがって、ライターの手が足らなくなり、その時にライターを画的に増やせる新事業として「原稿流通サービステーマネット」を始めました。

これは、当社の仕事だけでは多くのライターが集められないので、社外の依頼主に原稿を提供していく事業で、そのためにライターを大勢集めました。当時の当社の事業は大阪だけでしたが、この事業は東京からの引き合いが多く、翌年東京事業所を出すまでになりました。そして、ライターを集めておいた上で、東京でもその二年後に社史制作サービスの提供を開始しました。

現在、当社の登録ライターは一〇〇〇人の上っておりますが、この方々は、その約一〇倍の応募者の中から、書類選考と面接を経て登録された方々です。もちろん、毎年抜けていく人がいますが、同時に入ってくる人もあり、入ってくる人の数のほうが、若干多いようです。二〇〇六年一〇月、所属ライターの著作権侵害問題が数件発生し、数社の顧客にご迷惑をおかけしたことがあります。インターネットの時代にはコンテンツの流用、誤用、模倣が起りやすくなり、今後、このような難しい問題に対処していくことを考えて、外部に対するサービスは中止をし、現在は弊社の業務にしばってこれらのライターを活用しております。当社ではこのような具体的な悩みから、ライターを集める事業へと拡大していったわけですが、制作会社がどのような質のライターをどの程度もっているかというのは、社史の品質を

決定づける大きな要因となりますので、十分に注意していただきたいと思えます。

私どものこれまでの経験で申しますと、ライターの質は量に比例するという事です。つまり、多くのライターを集めて、その中から質のいいライターを取捨選択するということが必要です。その点について、制作会社の取材・執筆態勢を確認しておく必要があります。ライターの情報をあまりもっていない会社では、不安が大きいといわざるをえません。制作会社が決まって、ライターと面談をしたら、いま一つの人だったという場合もあります。その場合、すぐに人を変えて紹介して行くことができるようなところでない、対応力が弱いと申せましょう。

また、⑤の相性とは、なんだか変なことをいうようですが、やはり依頼主企業と制作会社の相性というのはあると思うのです。依頼主企業の社風をどこまで理解してくれるか、その社風になじめる担当者か、なじめる会社かなど、社史は長い期間の付き合いとなりますので、その点を十分に見極めておいていただきたいと思えます。